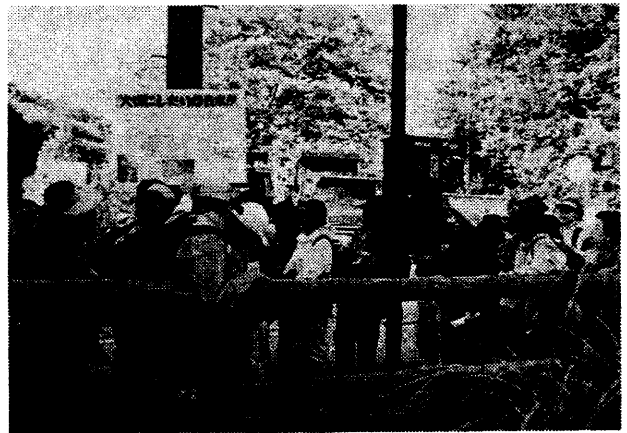


	<p>1999年11月15日 第15号          発行：いたばし水と緑の会 事務局          年会費 2,000円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会          ホームページ <a href="http://www.ne.jp/asahi/nature/land/index.htm">http://www.ne.jp/asahi/nature/land/index.htm</a>          〒173-8501 板橋区板橋2-66-1 TEL 03-3579-2598          板橋区環境保全課内 FAX 03-3579-2589</p>
---	---

秋晴れのもと

# 自然発見ウォーキング'99 が開催され ました



これ 湧き水?!  
マンホールの前で

10月23日(土)、赤塚公園において『第2回自然発見ウォーキング』が開催されました。参加者は約170人。

今年の見どころは、3月に完成した美術館前の自然池です。完成後約半年を経て池の様子もだいぶ変わり、参加者にはトンボやチョウの仲間が数多く来ていることや、ザリガニやバスなどといった、人の手によって入れられた生き物の弊害についても、十分に理解していただけたようです。

また、ウォーキング開催中にザリガニ採りの籠を仕掛けましたが、60匹程度が採れました。6月のかいぼり後、まただいぶ増えているようです。 (文責/眞崎哲二)

事前準備におけるコースの矢印作りには何人もの方が参加してくださり、作業も楽しくできました。

自然発見ウォーキングをやることで、たくさんの収穫がありましたが、一番よかったことは、多くの方がそれぞれ自分のできること、技術、特技を発揮してくださったことです。また、今までお会いする機会がなかった方と親睦をはかれたこともよかったと思います。

最後にもうひとつ実感したことは、準備をしっかりとやるということです。これは矢田さんから教えていただいたことです。大変なことです、多くの方が気持ちよく参加するためには大切なことだと思いました。

参加していただいた皆様お疲れ様でした。ありがとうございました。 (文責/小松容子)

# 自然発見ウォーキング

コースは昨年と同様に、美術館をスタートして、自然池～郷土資料館横～竹林～赤塚5丁目公園～乗蓮寺裏～湧水のマンホール～城址公園～美術館へと戻るものです。

では、コースを一回りしてみましょ。

自然池を後にして、溜池方面へ。溜池を右手に見て、傾いて木に支えられた大きな木の下をくぐり、郷土資料館に沿って歩きます。この木はイヌシデで、昔の写真にも写されています。左手は城址公園北側の斜面です。コナラやクヌギを中心とした武蔵野の面影を残す林です。もう少し季節が進めば、落ち葉が積もってふかふかの地面になります。

車道に出て左折し、少し歩くと城址公園西側の入口があります。入ってすぐサイカチの木があります。足元に黒くて平らなサイカチの実が落ちています。右手は竹林、左手は城址につながる斜面です。風にゆれるこずえの音や鳥の鳴き声などが聞こえてきます。

薄暗い林を抜けると、明るく開けた赤塚5丁目公園の横に出ます。ここには、オニグルミが実をつけています。区民農園に沿って歩くと、左手は柵で囲まれた空き地で、草が生い茂って



自然池前に設置したパネル「池の短い歴史」「やって来た生物」「困った生物」の三本立て

います。虫の声が聞こえてきます。

道の突き当たりを左折して、その先の階段を降ります。城址公園の南側に来ました。左方向へ道なりに進むと、右手に乗蓮寺の裏へ上がっていく公園があります。その奥の階段を上がっていきましょう。ここでも、多くの鳥たちが鳴き交わしています。

階段を登りきると大仏様の後姿が見え、先の公園には、コナラのドングリがたくさん落ちています。その奥の階段を降りていきます。

降りたところは不動の滝の近くで、湧水のマンホールがあります。湧水の水温は17度、水量は約20～30ℓ/分。冷たくて気持ちの良い水です。

湧水を後にして美術館方向へ。信号を左折して城址公園へ上り、登りきるあたりで、左手に先ほど通った乗蓮寺裏の公園を見下ろせます。

城址公園南側から上の広場に向かって進みます。栗の木には冬芽が、ホウノキには大きな葉がついています。広場に入って右側には、会で作った柵があります。これは東側斜面を守り、草地の回復を図るためのものです。

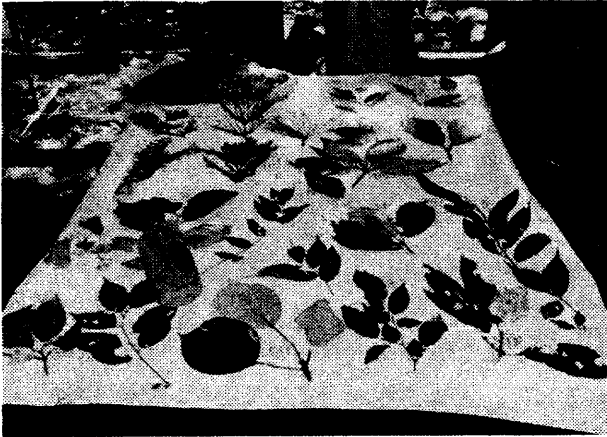
城址から溜池の方へ降りて、自然池に戻るといよいよゴールです。これで一回りしました。何かすてきな発見がありましたか。

参加者にはアンケートに答えていただきました。身近にこのような自然があることを再認識したとの感想が多く寄せられました。

アンケート結果については、次回の会報で詳細にお伝えします。

今回は、多くの会員の方にお手伝いいただき、会員同士の交流も深まりました。皆さんご協力ありがとうございました。(文責/眞崎哲二)

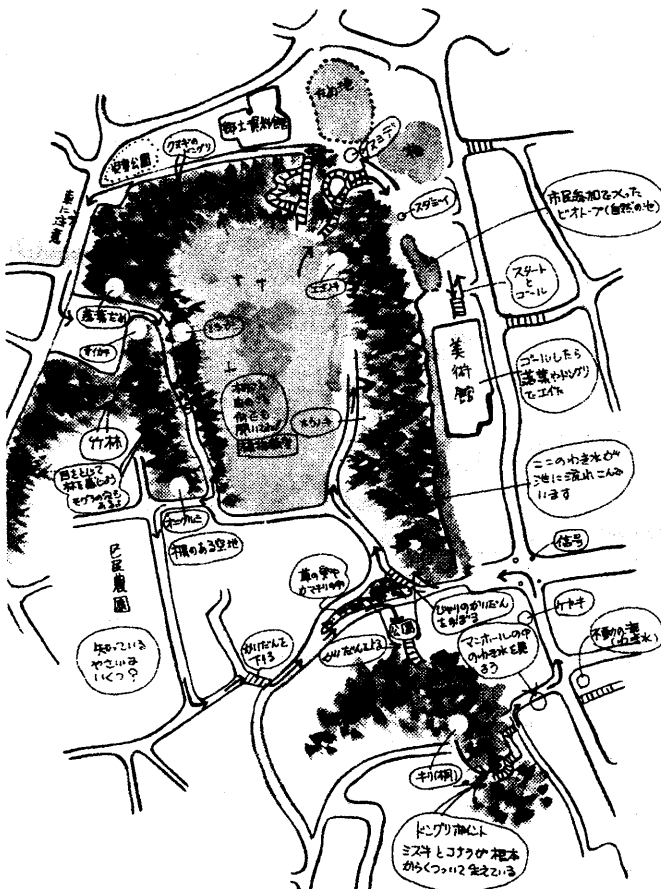
# '99 誌上体験



実物の木の葉で勉強  
城趾公園の植物教室で。テストも有った？



松ぼっくりでお人形  
工作教室で。上手に出来たね！



自然池の前では竹細工、美術館の中では工作教室が開かれました。

どんぐりや落ち葉などを使った工作教室では、ブローチや人形などアイデアいっぱいの作品が出来上がりました。竹細工では、竹とんぼや一輪挿し、けん玉などができました。どちらも家族連れを中心にたいへん賑わいました。



竹馬づくり  
一輪挿しも好評 竹馬乗りは子供が夢中（ついでに一部の大人も）

赤塚城跡の周辺を巡る  
コースを4つに分けて、それぞれの  
コーナーには担当者がついた

## 荒川自然地工事中止について 建設省の方のお話をお聞きしました

10月7日、緊急意見交歓会『荒川笹目橋緑地の自然回復のこれから』として、荒川の自然地の工事が中止されたことについて、建設省としての見解をお聞きしました。

建設省荒川下流工事事務所事業計画課長によると、板橋区と戸田市の話し合いの結果、「笹目地域は戸田市の土地であるが、戸田市はこれを占有しない」。また、「板橋区は下流から整備を進めているので、ここを整備するとしたらもっと先の話」と、さしあたりこの土地に責任を持つべき占有者がいないことが明らかになりました。

そして、「建設省としては、どこかの自治体が占有してくれないと、市民団体にも占有許可を出せない」また「工事が中止になったからと言って何もしないというのではなく、観察会など地道な活動を続けることが重要だ」ということです。

以下に、そのときの議事をまとめました。

### 〈いままでの経過を加々見さんより報告〉

#### ・1997年 環境会議

荒川の自然回復をどうするか、どう進めたらいいかが話し合われ、プランが立てられる（この時点では、区が占有を考えていた）

#### ・水と緑の会と荒川回復団が見学会、自然観察会などを催す

#### ・1998年 環境会議

荒川の現状を報告し、その後のプランづくりがなされる

- ・『第1回市民案』を建設省に提出
- ・“実験池”の整備が始まる
- ・1998年秋 『第1回市民案』修正案を提出する。

- ・1999年春 区は占有しないという方針に転換された。現状では、広すぎて占有は難しいということ。

### 〈議事内容の抜粋〉

**水と緑**（水と緑の会会員の略、以下同） 板橋区が占有する以外に、市民団体があそこを使って活動する方法はないのか？

**建設省** 市民団体といえども、特定団体（野球チームなど）と同じだから、今の段階では活動できない。

**水と緑** 特定の人が使ってはいけないと言うが、野球場はいいのか？

**建設省** 許可したわけではない。

**水と緑** 地形をいじるのはいいのか？

**建設省** これまで実験池が掘られたが、原則を言えば掘ったりするには許可がいる。

**水と緑** 市民団体とはどの範囲を言うのか？

**建設省** NPOとかNGOとかで活動しているのが市民団体。

**水と緑** あそこを自然地にという計画だが、何

もしていない状態だと放置されたまま。建設省が自然地として残す場所として位置づけられないか？

**建設省** 将来的な計画として自然地だが、自然地として人が立ち入れない場所にはできない。

**水と緑** 例えば、いま野球チームが草を刈ってしまっている。それを草っ原の状態にできないか？

ネットも勝手に張っている。それはいけないと言えないのか？

**建設省** ネットを張っていることについてはダメだと言えるが、草刈りは言えない。草を刈らないのが自然地だと誰が決めたのか？

自然に放つたらかしくしておいても、人が何かをして自然にそうなっても、どちらも自然だ。

(私たちが考える自然と、建設省の考える自然という定義にはズレがある。私たちの考える自然は「自然地」。建設省の自然は「なりゆき」なのだ)

**水と緑** 建設省の計画では自然地でも、もし、区が野球場にするとしたら、野球場が優先されるのか？

**建設省** 優先される。

**水と緑** 建設省が持ったままにして、三者（建設省、板橋区、市民団体）でやっていけるようにできないのか？

**建設省** それも含めて検討したが、実現できなかった。

**水と緑** お金がからまないことだったら区もやると思う。違うかたちでのやり方はないのか？

**建設省** 違うかたちといっても、具体的にあげてもらわないと答えにくい。維持管理に市民

団体がボランティアで協力するというかたちだったらできるかもしれない。

**水と緑** 広域だから手間をかけない管理でない。維持管理をきっちり求められるとボランティアではできない。

**建設省** 区に関わってもらわないと、建設省としては困る。整備後は、継続した活動と管理が必要になるわけだから、区に関わってもらわないとそこまで出来ない。区が（占有して自然地として維持管理し、自然回復活動を）やると言えば、建設省は工事をやる。

(以上がこの日の議事をまとめたものです。その後の話し合いでは、今後『水と緑の会』として、板橋区側の話聞く機会を設けようという意見が出され、終会になりました)

#### 笹目橋下流自然回復予定地の現況

1999年10月10日現在

実験池を掘った当時より、草刈りのため草原は減少、池と水路の境も人が歩くため踏み固められつつある。特に東側の池は縁まで刈られている。刈った草が水路に投げ入れられていたこともある。

このまま放置しておけば、1年後には元の状態よりも自然は減少すると思える。また、私が心配するのは、橋に添って残されたアシ原にも悪影響がでるかも知れないということである。

ここは鳥ではセッカやオオヨシキリ、キジがいる。トウキョウダルマガエルもいるし、カヤネズミも見つかるかもしれない。昆虫ではツバメシジミ、ギンイチモンジセセリが住み着き、植物ではタコノアシやミソカクシ、クサノオウがある場所である。いずれも板橋区内では荒川沿い以外にはほとんど見つからない種類である。

(文責/釣巻岳人)

# 第6回 荒川クリーンエイド '99

## 笹目橋緑地会場報告

例年のように、今年も笹目橋近くの荒川河川敷でクリーンアップと荒川の水質調査を行いました(10月24日)。

当日は快晴に恵まれてゴミ拾い日和となり、参加者は、いたばし野鳥クラブ、板橋自然と遊ぶ会などの団体を含めて総勢45~50名が集合しました。特に元気の良い子供達の参加が目立ちました(板橋区緑と公園課の応援もありました)。

さて、今年のごみの散らばり状況ですが、土手の周辺では少なく、笹目橋の下(むしろ粗大ゴミの宝庫)と水際の散乱ゴミが多く見られました。そのためか、橋下の粗大ゴミを回収するグループ、水際に溢れる散乱ゴミをかき集めるグループともに、一心不乱にゴミ拾いに取り組まれているようでした。

粗大ゴミについては、毎年のように不法投棄が目立つようです。

ゴミの集計と水質調査の結果は、以下にまとめました。

### ゴミ集計 (ベスト3)

#### 散乱ゴミ

飲料缶	533
スーパーなどの袋	322
紙屑	280
ゴミ袋合計	45袋

#### 粗大ゴミ

タイヤ	16
家電製品	8
椅子	5
合計	50以上

### 水質調査 in 荒川

COD	8 (mg/L)	NH <sub>4</sub>	4 (mg/L)
pH	7 (pH)	NO <sub>2</sub>	0.15 (mg/L)

ゴミ拾いでひと汗かいた後、野鳥クラブ提供のおいしい豚汁を囲んで、昼食を楽しみました。午後は、荒川回復団リーダーの加々見さんを中心に、笹目橋周辺で自然観察を行いました。最後に、参加者の感想をまとめます。

- 子供も気軽に参加できるプログラムにして欲しい。
- ゴミが拾いきれないほどあった。ペットボトルの数が増えた。
- 道に空き缶があったよ。モーターもあった。臭くていやになったけど楽しかった。

木村 延明 記

### ゴミの下にも生き物が

1999年10月24日

今回のクリーンエイドで、私がゴミの下で見つけた生物は

キボシアオゴミムシ (甲虫の仲間)	1匹
スズメガのさなぎ (種名は来年に判明)	1匹
ナメクジ	多数

以上です。

特に地面に埋まっているゴミはよく生き物の住家になっている。十分に土を振り落としてから回収して下さい。

釣巻岳人

# 『水と緑の会』の運営について

坂本 郁子

## 【水と緑の会の運営について】

会の活動の方向は、毎月1回の定例会で報告され、議論されましたが、実際に動き始めると、具体的なケースについてルールがないため、不明確な点や不都合も出てきました。

また、事務局についても複数のスタッフで対応していく必要があります。その第一歩として、編集委員会を設け、編集委員会で会報の方針を決め、内容を検討していくことになりました。

## 【会計について】

助成金の使い方について議論されました。助

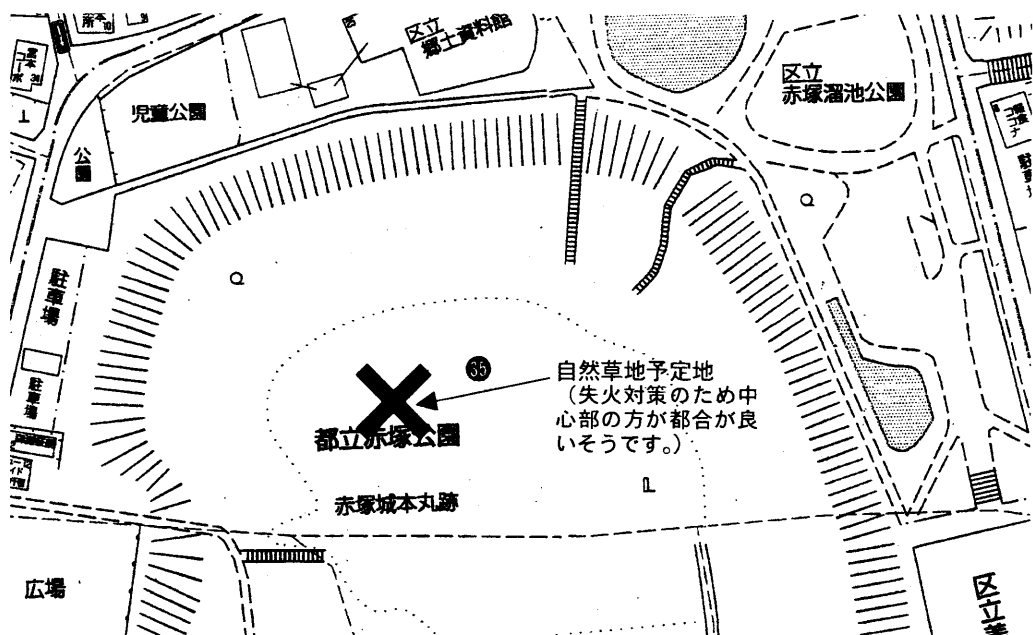
成金を受け取るようになると、その用途を明確にする、会計監査をきちんとする、などのルールが必要でしょう。毎年、総会時に次年度の事業計画を出しています。事業計画が決まるとおよその支出が見込まれますが、次年度からは予算案も検討していきたいと思います。

## — 発送のお手伝いを —

会報の発送は15日を予定していますが、発送のお手伝いをしてくださる方は、事務局にご連絡ください。

## 東京都公園協会との意見交換

10月13日、赤塚公園の維持管理を担当されている東京都公園協会小河原係長・廣木さんと城址周辺を歩きながら、会の活動内容や、管理についての要望などをお話しました。私たちの活動を評価していただき、また広場の一部を自然草地にすることなども取り上げていただきました。来年が楽しみです。



## 遠い昔の暮らしと自然

### (5) 揺るだけでない地震

矢田 茂

ちょっとした地震でも落ちる鶏小屋や納屋の荒壁の修理は、子供たちの仕事であった。だから、学校も休める地震は子供たちのお祭りであった。地震が大きければ大きいほど休みも増え、どんな地震でも大きく揺れば揺れるほど、元気を出した子供の頃を思い出す。

昔は、地震がくれば、老人から子供まで自分たちでできることを力を合わせてしたもんだ。災害はしばしば平和な暮らしをこわしたように見えるが、地震の強弱によっては子供たちに『地震、雷、火事、親父』という言葉の思い出させ、忘れがたい畏敬の念まで残している。

古い体験に、1944年の巨大な東南海地震がある。時刻は真昼のこと。体はコントロールを失ったダッチロール、受け取った地震のサインは、二度と見ることはない鳥の落ちる姿。それは百舌ほどの大きさが五六羽、地球の引力に吸い込まれるのか、矢のような速さで地面に向かってきた。僅か一分足らずの悪夢だが、目はいつもより不思議なほどよく見えているのに、手足だけは他人のようになって動かない。

そんな巨大地震の来襲を受け、身を守るものは、目を除けば何一つ五体の自由はない。しかも自分で動けない状況では、使える目を頼りに、

そこから逃げ出すチャンスを狙うだけ。ようやく掴まり立ちができれば、助け合う人を探せばよい。幸い私は、世話好きの人に当たり、見ず知らずの方であったが命拾いをした。

家庭でできる地震の観測は、初動の微かな上下動を伝えるP波、続いて始まる横揺れのS波、この日常的に起こる小さな地震でも大地震の予測はできる。

家庭で誰が地震を感じたか、揺れはいつ頃に始まって何秒ほどと、正確な震源と時間が判れば、地震の観測も面白くなる。こうした基本の防災感覚こそ、一家の全滅を防ぐのではなからうか。

このように、地震については様々な煩わしさもあるが、暮らしの文化もある。大げさに言えば屍を積み重ねた、災害の歴史かもしれない。

しかし昔は、この自然の便りを巧く使い、口先ではない行為の触れ合いがあった。これこそコミュニケーションと覚えている。

この美風もいつとなく忘れられたが、人と汗の交わりを運ぶ巨大な地震は、思い出したころやってくる世直し屋さん。この大切な自然のお使いを懐かしくお迎えし、私たちは頂くものは頂き、世代に伝えるべきを残したい。



# 板橋のミツバチ

干場 英弘

## 都会のと真ん中はミツバチのユートピア？

「えっ！ここでこんなに良い蜜が取れるの？九州に持ち帰って仲間に『都会のコンクリート蜜』と言って驚かしてやろう」

これは、私の職場である大東文化大学第一高等学校で、以前セイヨウミツバチを飼育していた時に訪れてくれた、ある有力養蜂業者の言葉である。

実際には、当然のことながら『コンクリート蜜』ではなく、アカシアを中心とした文字通りの国産最高級蜂蜜に匹敵する蜂蜜である。その他、春になるとサクラからはじまってネズミモチ、さらにトウネズミモチに至るまで、良質の蜜がたくさん採れる。養蜂業者が“夏枯れ”と言っている真夏でさえも周辺に多くのサルスベリの並木があり、蜂群に重要な花粉を提供してくれるし、秋にはセイタカアワダチソウなどの花から越冬用の蜜が大量に入る。

ミツバチは『板橋の都会はまさにユートピア』と錯覚しているのではないかと思えるほどである。

## ここ数年の異変

日本には土着のニホンミツバチと、欧米から輸入して養蜂業者が飼育しているセイヨウミツバチの2種のミツバチが生息している。

ニホンミツバチは、セイヨウミツバチに追われて、人里離れた山野のみに生息し、やがて「絶滅するのでは？」と心配されていた。ところが、カラスと同様に、ニホンミツバチもどうやら都会に住み着きつつあるようだ。「蜂がいるので……」などと連絡があり、駆けつけてみると、ほとんどがニホンミツバチである。

無論、訪花しているのも圧倒的にこのハチが多い。

その理由は、①蜜源植物が思いのほか豊富である ②都会はオオスズメバチなどの外敵が少なく、またたとえ攻撃を受けても対処する術を心得ている ③ニホンミツバチはミツバチヘギイタダニという大敵に強く、越冬する際にとても有利である（このダニのいない環境で進化してきたセイヨウミツバチは、養蜂家の保護なしには大抵越冬できない）、などがあげられ、いったん山里から来てみると、「結構住みやすい」とばかりに増え続けている。

これは板橋区に限らず、最近の都市で起きている傾向である。

## オオスズメバチへの対応

日本の土着種には、皆が恐れるスズメバチがいる。板橋区では圧倒的にコガタスズメバチが多いが、時には世界で最も大型のオオスズメバチも見ることがある。

オオスズメバチは、夏になって子供に与えるえさが大量に必要になるとミツバチを襲う。外来のセイヨウミツバチが外敵のオオスズメバチに対して立ち向かい、それがために時には全滅してしまうのに対し、ニホンミツバチは個々で立ち向かうことはせず、この大敵を一気に取り囲み、“布団蒸し”にして温熱処理で敵を倒す特別な適応力を持っている。さすがに土着種である。



アメリカノウゼンカズラとニホンミツバチ  
徳丸町にて8月撮影

# 湾処の生態系①

## —湾処（ワンド）の環境と生態—

東京都立高島高等学校教諭 田川 健太

平成11年9月25日の自然回復ボランティア活動講座で、荒川生物生態園の水生生物調査を行ったが、その生物生態園には、荒川の本流から水を引き込み、水流を穏やかにした部分があり、それを湾処（ワンド）と呼んでいる。

### 湾処とは

湾処とは本来、大阪・淀川に固有の、川岸に接続した大小様々な湾入部のことをいい、その由来は明治時代にまでさかのぼる。

いわゆる『お雇い外国人』として1873年来日したオランダ人土木技師 Johannis de Rijke の指導のもと、1875年から淀川修築工事が始まった。Rijke は兩岸からケレップ水制と呼ばれる土手を突き出す工事を行った。これは、船の航路を維持する低水工事と、洪水時の水流を制御し、河岸や河床を保護する高水工事を兼ねた画期的なものであった。

その後、水制間に堆積した土砂が幾度か洪水によって洗掘され、現在のような止水域の湾処が形成された。

淀川以外にも、利根川や木曾川でも同様の工事を行ったが、淀川にのみ湾処ができあがった。

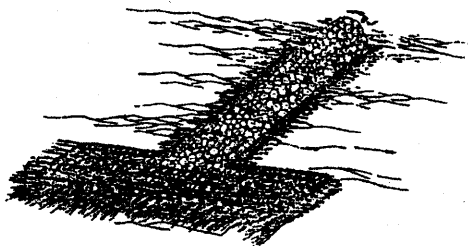


図1 ケレップ水制

### 湾処の環境と生態

淀川の湾処は、周囲にヨシ、オギ、マコモを中心とする抽水植物帯がある。水深は平均1.0～1.5 m。底質は礫、砂、砂泥、泥などである。

このような環境は、魚類の生育にはとても都合がよい。抽水植物帯は幼魚が大型肉食魚から身を守る生育場所となる。また、底質の砂、泥はドブガイやイシガイなどの二枚貝の生育に都合が良い。さらに、ヤリタナゴやバラタナゴなどのタナゴ類は、その二枚貝の体内に卵を産み付けるので、タナゴ類の重要な産卵場所となる。

淀川の水源は日本一の湖、琵琶湖（滋賀県）であり、現在でも56種の魚類が生息している。その下流域にある淀川では、汚染が進んだ現在もなお55種の魚類が確認されている。湾処が『小さな琵琶湖』と呼ばれる所以である。

魚類の生育に都合がよいこの湾処を、各地で人工的につくる試みがなされている。荒川生物生態園の湾処もその一つである。

今回の調査結果は、この人工湾処の効果を知る意味でも重要である。

（調査結果と人工湾処の効果については、次回紹介しよう）

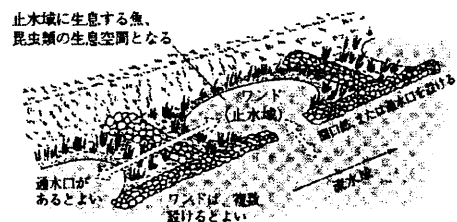


図2 ケレップ水制による湾処の形成

# 猪鼻さんが竹箒をつくりました

竹グループは、赤塚公園管理所の許可をいただいて、竹林の管理の一環として竹を切り、切った竹を生活に使うことをテーマとしています。兼松さんの提案で、まず竹箒を作ることになりました。子供のころ家に竹林があり、竹箒などを作るのを身近に見て育った猪鼻さんが実演。私達はちよろちよろと手伝いらしいことをしました。作ろうと決めたらすぐ出来るわけではないところが新鮮でした。

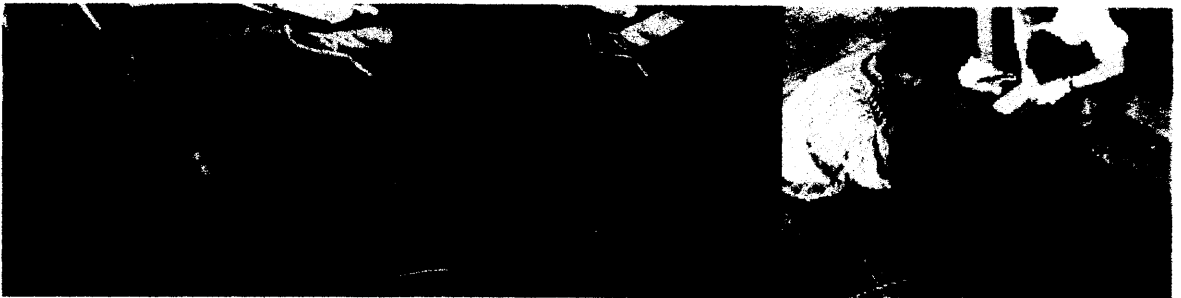
- 1 竹を切ります。太いところ細いところと分け、枝を切ります。
- 2 箒の先に使えそうな枝を束ねて変な癖がつかないようにぶら下げておきます。
- 3 そして葉が自然に落ちるまで待ちます。10日位か。
- 4 10月2日、いよいよ作業開始です。用意す

るものは、釘、針金、きり、金槌、ベンチ、ひも、枝を整理するためのハサミなど。

- ①すべり止めに釘を打ちます。2本を直角に
- ②竹を芯にしてのり巻きを作るように枝をそろえて広げます。枝は2回に分けて巻きます。まず中心部分のほうきをつくります。
- ③枝を巻いて形を整え、紐で仮止めします。
- ④枝の元をそろえるためベンチで引つ張ったり、たたいて引つ込めたり、じゃまになる枝を切ります。
- ⑤針金を2重に巻いてしっかり締めます。
- ⑥その外側にもう一度枝を巻いて、仮止めし、形を整えてから針金で巻き締めます。
- ⑦この日は2本完成。

出来上がった箒は、23日のウオーキング後の掃除、作業の後片付けに使っています。

子供サイズの竹箒をつくってもいいかなと思いました。次は自分でできるかな？



箒作りの手順



猪鼻さんの見事な手捌き



出来た !!

## 活動のお知らせ

## 12月全体定例会

日時：12月3日(金) 18:30~21:00

場所：産文ホール第4会議室

## 1月全体定例会

日時：1月7日(金) 18:30~21:00

場所：産文ホール第4会議室

## 赤塚の森ボランティア

## ●晩秋の森の観察会

日時：11月20日(土) 10:00~12:00

場所：美術館集合

内容：木の実、木の肌、落ち葉から森の木の観察

持ち物：図鑑、ルーペ、標本その他

## ●12月の活動

日時：12月11日(土) 10:00~12:00

場所：美術館前集合

内容：郷土資料館の裏の広場横で落ち葉から腐葉土をつくっています。通路やコンクリートに落ちた落ち葉を公園の土に戻すためです。堆肥置き場をきれいに整備、腐葉土にいる生き物調査、および今年の落ち葉を積む作業をします。

連絡先：坂本(3579) 2598

## ●12月世話人会

日時：12月11日(土) 13:30~

場所：赤塚5丁目集会所

## ●1月の活動日

日時：1月22日(土) 10:00~12:00

場所：赤塚公園管理所前ベンチ

内容：草地整備等に必要な剪定枝の準備

## ●1月の世話人会

日時：1月22日(土) 13:30~16:00

場所：未定

連絡先：坂本(3579) 2598

## ●竹グループ(毎月第一土曜日午後)

連絡先：猪鼻(3933) 8269

◎日時：12月2日(土) 1時30分

場所：竹林前

内容：竹工作にいい季節がきました。竹を切つてめいめいで作品をつくってみます。

持ち物：軍手、切り出しナイフ

◎日時：1月8日(土) 1時30分

場所：未定

## 徳丸が原公園の自然回復を考える

徳丸が原公園の水辺を回復するために現地で調査します。

日時：12月5日(日) 13:30~

場所：徳丸が原公園

連絡先：大西(3938) 3106

## 板橋環境会議

日時：1月16日(日) 10:00~17:30

場所：エコポリスセンター

内容：

第1分科会 荒川の自然

第2分科会 ゴミ

第3分科会 地域のエコアップ

第4分科会 環境にやさしいお店の応援

会費：500円

問合せ：エコポリスセンター(5970)5001